

皆様、ご卒業・ご修了おめでとうございます。

永年にわたりご子息・ご息女を支えてこられましたご家族の皆様にも心からお祝いを申し上げます。

本学にとりましても、関係各位をはじめご来賓の皆様方のご臨席を賜り、平成 24 年度の卒業式・修了式を挙げていくことは、誇らしく、大きな喜びであります。

総数 2,138 名の方が所定の全課程を修了し、晴れて本日のこの式典に臨むことができますのは、皆様ご自身の平素の切磋琢磨の賜物であり、心より深く敬意を表します。

このなかには、8カ国 の 75 名の留学生の方々もおられます。留学生の諸君は異文化の中で、きっとさまざまな困難に直面され、それを克服し、そして立派に初志を貫徹されました。その努力を心から讃えたいと思います。

同時に、これまでの長い学校教育の期間、皆様のご家族、恩師、先輩、同僚、後輩、そして社会から受けた恩恵には計り知れないものがあります。

また、皆様が大学生活を送った本学は、大阪市民の大学として 267 万の市民によって支えられてきたという事実にも思いを馳せていただきたいと思います。

皆様の多くは社会に巣立ち、高度な専門的職業人となることが期待されています。また、大学院に進学してさらに学業を続ける人、病院等で研修を受ける人、研究者として第一歩を踏み出す人もおられます。

いずれにしましても、今後も大阪市立大学の卒業生・修了生の名に恥じないよう努力し、それぞれの領域で自らの目標を達成してください。

本学では、それが実現できる教育に努めてまいりました。自信と誇りを持ってこれからの人生を歩んでいただきたいと願っております。

一昨年(2011)の3月11日に東日本大震災が起きました。まだ、ほんの2年前の出

来事ですが、すでにかなり以前のように感じている方もあるいはおられるかも知れません。マグニチュード 9.0 という未曾有の地震が我が国を震撼させたことを、自分のこととして受け止め、今まさに、今後の在り方を考えることが求められているのではないのでしょうか？

また、原発事故に伴う放射能汚染についても、除染に努力が傾けられてはいますが、地震から逃れられない我が国としては大変に大きな課題が突きつけられたこととなります。皆様はこれから社会人として出発されますが、学生の時代とは別次元で再度、これらに立ち向かっていただきたいと思います。

本学は、2006年に法人化をし、2011年に第1期中期目標・中期計画の期間を終え、昨年の2012年4月から新たな6年間の第二期中期目標が始まっています。その中で、本学を、

- ・わが国で数少ない公立の総合大学として131年の歴史と伝統を有し、
- ・大学の普遍的使命である真理の探究はもとより、都市を学問創造の場と捉え、都市の諸問題に取り組み、特に都市科学分野の研究とシンクタンク機能を充実し、大阪・関西の活性化になくてはならない存在と位置付けております。

さらに、「総合大学の魅力である多様性を強みとして、高度の専門性とグローバルで幅広い視野を有し、都市大阪の成長や地域の発展に貢献する有為な人材を育成」するという目標を掲げてきています。

一方、現在、大阪府・市では、今後の大阪の成長に貢献する公立大学のあり方について、外部有識者による新大学構想会議を設置し、検討が進められてき、このたび、「新大学構想〈提言〉」が示されたところです。

新大学構想会議においては、新たな公立大学ビジョン策定の背景として、

- ・世界的な都市間競争に打ち勝つ『強い大阪』を実現する成長戦略において、都市の知的インフラとして大学の活用は不可欠であること、
- ・二つの大学をあわせれば学生数2万人規模の公立総合大学となり、これまで培ってきたポテンシャルの活用が、より重要になることが示されております。

現在示されております「新大学構想〈提言〉」においては、具体的な将来像として、両大学を統合した新たな学部・学域が示されています。両大学の理系の強みとなっている分野に「地球未来理工学部(仮称)」の新設することや、本学の生活科学部に府立大の関連部門を統合拡大した「人間科学域(仮称)」の設置など、先端研究をより強固にし、時代のニーズに応じた新たな学部組織の提案など、両大学の強みを強化するとともに、より大きな視点で発展を期待する提言となっております。

また、こういった統合によるスケールメリットを活かした新たな体制を確立する一方で、基礎・学術系が強い総合大学の本学が、これまでの両大学の伝統や蓄積を活用し、本学の特徴をより発展させうる内容と理解できます。

今後は、現在進行中の本学の改革をこれらの提言を踏まえて、多くの課題に対処しつつ、より充実し、飛躍、発展できる大学を目指していきたいと考えております。皆様におかれましては、ご卒業後も本学の新たな姿を注視していただき、温かいご支援をいただければと願っております。

次に、本学における昨年のいくつかのトピックスを述べたいと思います。

昨年の10月にはノーベル医学・生理学賞が山中伸弥先生の受賞と決まり、大喝采を浴びました。皆様もよくご存じのことと思います。本学の医学研究科の卒業生として大いに称賛されるべきと、喜んでおりましたところ、さらに、また、喜ばしいニュースが新年になり飛び込んでまいりました。

理学研究科、複合先端研究機構の神谷信夫教授が、本年の1月に「朝日賞」を受賞されました。朝日賞は学術、芸術などの分野で傑出した業績をあげ、わが国の文化、社会の発展、向上に多大の貢献したことに對して贈られる権威のある賞です。

先生の研究は、光合成のなぞを解く鍵となる「マンガングラスタール」という物質の分子構造を解明したもので、2011年のサイエンス誌の世界の10大トピックスに挙げられました。国家プロジェクトの「はやぶさプロジェクト」と並ぶ

我が国からの 2 つの大トピックスの中の 1 つとしてとりあげられ、世界から祝福を受けたばかりであります。本学としても大変に名誉に思う次第です。

また、昨年 3 月にこの 20 年来の念願の JR 東口が開設されました。教職員の方々をはじめ、近隣の方々のご尽力をいただいたおかげと感謝いたしております。そして 6 月に東口に連絡通学路としての「南部ストリート」が開設され、その通用門を「杉本門」と皆様の公募で決めていただきました。

これに隣接する南北道路は 12 月に開通し、今月には黒田緑化財団のご寄附による桜並木の植樹を行い、はばたけ夢基金からも枝垂れ桜の植樹がなされ、歩行路としてより素晴らしいものに完成します。2, 3 年先には桜の満開があるのではないかと思います。どうぞ、卒業後も、時にはご来校いただければと期待しております。

学舎関係では、理系学舎の整備は着々と進んでおりまして、旧教養地区の共通研究棟、理工地区の理系共通実験棟はすでに 8 月に完成し、全体の工事も 2015 年春にはすべて完了できると考えております。その折には、この新理系学舎の前の櫓（けやき）通りも整備し直し、南部ストリートからの美しいアクセス通りにしたいと考えております。

また、この 3 月には産学連携拠点としての人工光合成研究センターが完成し、いよいよ本格的に研究活動が新たな拠点で始動いたします。同時に新しい試みとして、7 月には「うめきた」地区のナレッジキャピタルに「健康科学」をテーマとした市立大学ゾーンを開設し、全学プロジェクトの産学連携活動に一役買っていただこうと思います。

さらに、2014 年の春には、あべのハルカスの 21 階に医学部の検診事業を含む先端予防医療センター、さらには医学部内に同名の研究所を設置する予定です。今後の 21 世紀の医療の先端に行く先制医療を中心に、大阪の健康・医療におおいに活躍を期待されるところです。

一昨年に、大学に大学サポーター事務局を設けました。昨年の11月に全学の統一同窓会としての大阪市立大学全学同窓会が設立され、今後はさらに同窓会活動を全学的に進めていただくと同時に大学も今まで以上に協力して参りたいと考えております。

海外では、上海同窓会が結成され、昨年の11月には学生のインターンシップの受け入れにもご協力いただき、この4月には大学の上海拠点を開設いたします。さらにタイのバンコクにも同窓会ができており、今年中には拠点を設けることができると考えております。

ますます同窓会活動も国際色を帯びてきており、新たな局面に入ったと感じております。皆様もこれから海外での活動の機会が多々あると思いますので、全学での同窓会活動はもとより海外の同窓会活動にもご参加いただければと思っております。

さて、本日のこの佳き日のためのお話を申し上げたいと思います。

コマツ製作所会長で、日本経済団体連合会（経団連）副会長でありました**坂根正弘様**はしばしばテレビや新聞などでお目にかかっておられますので、皆さまもよくご存じだと思います。

同氏は1963年に本学工学部をご卒業され、小松製作所にブルドーザーの設計技術者として入社。取締役、現コマツアメリカの社長を経て、2001年に同社代表取締役社長兼CEOに就任されました。

現在は取締役会長を経て、特別顧問として、社業はもとより我が国の経済界での活躍とともに、種々の社会的な事業にも貢献されておられます。

実は、東洋経済社から出版された同氏の3冊目となる本「**言葉が人を動かす**」というタイトルの本を坂根氏から直接贈呈いただきました。お手紙の中に、学生諸君にもぜひ読んでいただければと願っておられましたので、この本を少し紹介したいと思います。

人を動かすのは、つまるところ言葉であるという、同氏の長年の企業内活動

や社会活動から得られたエッセンスが示されています。「リーダーに求められる言葉の選び方、使い方」を「言葉力」という造語で表現され、言葉で人を動かすための工夫として、平易な言葉、正確さ、論理的、そして相手の立場や感情に配慮するという要素があるとされます。

将来リーダーを目指す人は、私はここにおられるすべての人がそうであると思いますが、言葉力を養うことが社会に出て、第一のことではないかと思いません。

その裏には「きちんとした行動」が存在し、これらの能力を高めるためにも「よく見る」こと、「よく観察する」ことが大切と強調されています。いわゆる「見る」「語る」「実行」の三位一体が坂根氏の言わんとされる「言葉力」という意味であろうと思います。

坂根氏の座右の銘の一つに「知行合一」（ちこうごういつ）という言葉があります。

これは王陽明の学説にあることばで、知識は行動のもとであり、行動は知識の発現であるといわれています。

「知と行は同時一源のもの」と広辞苑では示されていますが、同氏は「**知識と行動は合わさって初めて1つである**」と強調されます。

そして、逆に自分の行動から得る知識の蓄積が自分の宝となることを「**実践の場で繰り返して学んだことこそ本物だ**」と明快に示されています。

諸君が社会に出られ、新たな世界で仕事なり、研究なりに着手されます。たぶん、きっと驚くほどに沢山のことを学ばなければならないと思います。なにしろ初めてことが圧倒的に多いわけですから。

仕事をすることは、即、勉強することと必要に迫られるでしょう。実際に行動しながら学び、学んだことを行動に移すことを繰り返すことになると思いますが、これが皆様の社会人の基礎を作り、より社会人として発展させる基盤になる大切なファースト・ステップであると考えてください。

ここを全力で体当たりしてください。きっと驚くほどの進歩を実感できる日が後に来ると思います。そのとき、きっと坂根先輩の言葉をなるほどと理解で

きたと感じられるのではないのでしょうか。

坂根氏は、3つの力、すなわち、

- ・「見る力」：問題の本質や物事の大局を「見る力」
- ・「語る力」：聞くものを腹落ちさせ行動を引き出す「語る力」
- ・「実行する力」：言葉から行動と実績を伴わせる「実行する力」

この3つの力を知行合一として高めてこそ、初めて「言葉力」が備わるといいます。

「99%の汗と1%の知恵」、どんな偉人もその成果の99%は汗を流した結果であり、長い長いその人の地道な「物事の見える化」の努力があって、本当の最後の最後に1%の知恵が後押しをするということではないのでしょうか。

これから新たな出発をするという諸君、研究生活、あるいは役所や会社勤めを始める諸君。このような時期にこそ、この力強い坂根先輩の言葉を感じ取ってください。きっと、諸君の底力が発揮されると信じています。

最後に、社会、世界は急激に、あるいは過激に変化し、変容してきています。また、恐ろしいほどの、そして予測すらできない災害も襲ってきます。このような世界においてグローバルな生き方はもう必須なことです。

本日は、社会に第一歩を歩まれる大切な日であります。それとともに社会における生涯学習がはじまる初日でもあります。

ご自分で体験し、経験を蓄積し、ご自分で学んでいくことが求められます。また、皆さまの社会生活や職業人生活において、ご自分が専攻してきた専門とは異なった分野の勉強や、より高度な勉学を必要とする場合があるとも思います。

本学の社会人のためのカリキュラムは豊富に用意されております。先ほども述べましたが、本学もこれから、さらに進化を続け、新たな新時代の大学へと

変容していきます。機会を見つけて、本学の社会人のための学びの場をおおいに利用していただければと思います。

また、多くの先輩の方々から本学で講義を教わられたと思います。いつの日か、皆様も実社会での豊富な経験と実績を後輩の学生諸君に還元していただける場を持っていただければと期待しております。種々の立場で、本学を支援し、本学を愛し、そして本学で再びお会いできることを楽しみにいたしたいと思えます。

皆さま、本学で学んだ「**進取の気風**」と「**在野の精神**」を持ち続けてください。

そして健康で充実した生活、そして逞しい生きざまを創ってください。

皆さまの大いなる前途を祝し、本日の卒業式・修了式の私の祝辞といたしたいと思えます。

本日は本当におめでとう。